

2018年度
 二次分析研究会
 参加者公募型研究
 成果報告会



勤労者の仕事と暮らしに関する二次分析： データから見た2007年～2017年

■概要

わが国の景気動向や仕事と暮らしについての勤労者の認識を定期的に把握するとともに、勤労者の生活の改善に向けた政策的諸課題を検討するための基礎的資料を得ることを目的として、連合総合生活開発研究所が実施した「勤労者の仕事と暮らしについてのアンケート」を使用データとした二次分析の成果を報告します。

■日時／場所

2019年2月20日（水） 14：30 ～ 17：20
 東京大学（本郷キャンパス）赤門総合研究棟5階 549 センター会議室

■プログラム

14:30- 開会の挨拶（南雲 智映／東海学園大学）

第1部 14:35-15:55 ◇司会 藤原翔(東京大学) ◆コメンテータ 大沢真理(東京大学)

- (1) 「リーマンショックがもたらした働き方の変化－労働時間に注目して－」（田上皓大/慶応義塾大学）
- (2) 「介護離職要因の検討と課題」（西垣美穂子/明星大学）
- (3) 「雇用と仕事の不安定性（プレカリティ）と健康」（川野英二/大阪市立大学）

第2部 16:00-17:20 ◇司会 佐藤香(東京大学) ◆コメンテータ 佐藤一磨(拓殖大学)

- (4) 「労働組合は労働市場の格差を拡大したか」（鈴木恭子/東京大学）
- (5) 「転職意向を規定するもの－二重構造論の視点から」（魚住知広/東京大学）
- (6) 「小企業の就業者が満足や不満を感じる要因」（井上考二/日本政策金融公庫）

- 事前の申し込みは不要です
- お問い合わせは、s-analysis@iss.u-tokyo.ac.jp まで